

鶏の暑熱対策について

いよいよ暑～い夏がやってきました。鶏は人間と違って、体温を一定に保つために必要な汗腺が無く、また体が羽毛で覆われているため、暑さによる影響を受けやすい生き物です。

夏季の生産性低下を防止するために、適切な暑熱対策を講じ、あなたの鶏と経営を守りましょう。

1・鶏舎内温度と鶏への影響

温度（℃）	鶏への影響
18～24	採卵鶏の適温です
25～29	25℃以上で飲水量が増加。27℃を超えると暑さのストレスにより飼料摂取量や産卵率、卵質が低下します。
30～36	飼料摂取量がさらに減少し、産卵率、卵質も更に低下します。活動性が低下します。
37以上	著しく飼料摂取量が減少し、破卵率が上昇、死亡鶏も増加します。重度のパンティングで（呼吸数増加）で呼吸性アルカローシスが進み体力が低下、熱射病による死亡が増加します。

2・暑い夏を乗り切るための対策

（鶏舎の対策）

- ☞ 屋、壁への断熱材の利用や、白色ペンキや石灰を塗布しましょう。
- ☞ 屋根にパイプやスプリンクラーを設置し散水しましょう。
- ☞ 吸気口へのクーリングパッドの設置や吸気口付近への散水も有効です。
- ☞ 鶏舎周囲を寒冷紗や緑のカーテンで囲い、直射日光を遮断しましょう。
- ☞ こまめに除糞を行い、鶏舎内の発酵熱を減らしましょう。
- ☞ 鶏舎周辺に植物を植えて、地上からの照り返しを防止しましょう。

（鶏体への対策）

- ☞ 涼しい早朝や夜間の飼料給与（ミッドナイトフィーディング）も効果的です。
- ☞ 鶏舎内の飲水の温度を低く保つよう、給水器内の水を頻繁に入れ替えましょう。
また、ニップルドリンカーは末端を解放し、水温を低く保ちましょう。
- ☞ 不足しがちなビタミンやミネラル普段より多く投与しましょう。

神奈川県県央家畜保健衛生所

〒243-0417 海老名市本郷3658

電話：(046)238-9111 ファクシミリ：(046)238-9124

東部出張所 〒226-0015 横浜市緑区三保町2076

電話：(045)934-2378 ファクシミリ：(045)934-5432